

防犯、交通安全策 高校生提案

茨木署で7校生徒「サミット」



防犯や交通安全などの意見を出し合う「高校生サミット」(茨木市で)

茨木市内の7高校の生徒代表が、防犯、交通安全、防災などの意見を述べる検討会「高校生サミット」が、茨木署で開かれた。同署や市は出された意見について、市内の施策への反映を検討する。

府立春日丘、茨木西、私立の早稲田大阪などから

1、2年の希望者ら17人が参加し、9月28日に実施。3班に分かれて▽犯罪被害防止▽自転車マナーアップ▽防災―のいずれかのテーマを話し合った。

茨木工科は、目が電球で赤く光って詐欺や事故に注意を促す看板を作り、会場で披露。材料は文化祭など

で生じる廃材を再利用するとして「SDGsにもつながる」と訴えた。多言語のポスター掲示や、標語コンテストの実施といったアイデアが出て、織田博行署長と福岡洋一市長に提案した。

織田署長は「斬新な発想

で提案してもらい、感謝している。これを機に防犯に関心を高めてほしい」とあいさつし、追手門学院2年の元藤敷徳さん(17)は「街のことを考えるのは自分にとって非常にいい経験で、楽しかった」と笑顔を見せた。